

学会声明

日本口腔衛生学会は「健康な歯とともに健やかに生きる - 生涯 28(ニイハチ)を達成できる社会の実現を目指す-」を掲げ、これからの歯科保健医療が国民の真の幸福に貢献できるシステムづくりに向けて幅広く活動を進めることで、国民に寄り添える学会として発展を目指します。

本声明の目標達成のため下記の活動に取り組みます。

1. 「生涯28」がもたらす社会的利益についての科学的根拠の収集・作成・開示を行います。

- 1) 歯の喪失のQOLへの影響
- 2) 歯の喪失の全身の健康への影響
- 3) 歯の喪失の歯科・医科医療費への影響

2. 「生涯28」社会の実現に向けての課題解決を目指します。

- 1) 口腔保健に対する国民の意向の集約と発信
- 2) 歯科医療保険制度の改革
- 3) 歯科保健事業の改革



一般社団法人

日本口腔衛生学会



生涯 28 (ニイハチ) の達成とは

我が国の口腔の健康状況は、若年者の急激な齲蝕(虫歯)の減少に代表されるように近年急速に変化しています。80歳で20歯を残そうという8020運動が提唱された頃に実施された国家調査(1993年)では80~84歳の者で20歯以上を残していた者はわずか11.7%に過ぎませんでした。8020運動の目標は当時は無謀とも思われていましたが、この運動は国民の中に浸透し、直近(2016年)の同調査ではその達成者は44.2%にも上昇しています。これまでの調査結果から得られたデータに基づく回帰式から、2036年には80~84歳の全ての人に20歯以上の歯が残ると予想されています。

ところで、残す歯の目標値がなぜ20歯なのでしょう。人には32本の永久歯が生えますが、現代人の顎の大きさとこの数はバランスが悪く、ほとんどの人では親知らずを除いた28歯しか機能できないことから、現代人の永久歯数は現実的には28歯になります。すなわち、20歯を残す目標には大切な機能歯を8本なくしても仕方がないという諦めの気持ちが込められていることとなります。では何が原因で人は歯を失うのでしょうか。多くの人には未だに老化と考えるかもしれません。老化に抗って何とか20歯を残す、このスローガンにはそんな気持ちが見え隠れします。しかし、2005年に本学会員が実施した調査では、日本人のほとんどの歯の喪失は齲蝕と歯周病およびこれらの疾患に関連した破折によることが明らかになっています。

学校や幼稚園・保育園などでのフッ化物洗口などの地域でのフッ化物応用やフッ化物配合歯磨の普及、シーラント(予防充填)の普及、砂糖摂取量の制限施策、禁煙や受動喫煙の防止施策などは、齲蝕や歯周病を予防して、上述の通り8020達成者率の増加という結果を残してきました。齲蝕と歯周病は口腔の細菌が歯面にバイオフィルムを形成することで発症・進行することが知られています。残念ながらワクチンのような予防方法は未だに開発できていませんが、歯科医院での定期管理とセルフケアを上手に組み合わせてバイオフィルムをコントロールすれば、いずれの疾患も発症や進行を止められることが明らかになっています。ただし、セルフケアも自己流では意味がないばかりでなく、反って歯や歯周組織を痛めるおそれがあるため、各個人に適したセルフケアのやり方を歯科医院で指導して貰う必要があります。

国民の皆さんは普段、歯科医院をどのように利用していますか。歯や歯茎が痛いとき、歯が動き始めたとき、歯茎から血が出たときに慌てて歯科医院に飛び込んでいるのではないのでしょうか。上述のように、歯科疾患は手間暇を掛けてきちんとした管理を行うことで発症・進行を予防することができます。つまり、歯科医院を上手に利用することで、病気で歯を失うことなく28歯を維持した状態で生涯を豊かに過ごすことは決して夢の話ではありません。

歯の健康が全身の健康に強く関係することは多くの研究から明らかになっており、超高齢社会を迎えた我が国が今後抱える様々な健康・医療問題の解決に向けて、口腔の健康管理には大きな期待が掛けられています。国民の皆さんが健康な歯とともに生涯を健やかに生きるために、齲蝕や歯周病の予防が実現できる社会環境づくりを推進するとともに、安心して声を掛け、相談できる歯科医師の育成を我々の学会は目指します。